

要 望 書

国営八代平野土地改良事業の推進について



【八代海沿岸に広がる八代平野】

令和3年11月
熊本県八代市・氷川町

八代市及び氷川町に広がる八代平野地区は、一級河川の球磨川や二級河川の氷川などから流下した土砂が堆積してできた扇状地と三角洲等の沖積平野と、西暦1600年頃から始まる干拓事業により造成された低平地で、これまでに国営及び県営で造成された用排水施設等により、全国有数の農業地帯となっており、現在では水稲とい草を中心とした営農形態から、トマト、メロンなどの施設園芸や露地野菜への転換が図られ、生産性の高い多様な農業が展開されています。

本地区では昭和39年から昭和48年にかけて国営土地改良事業により遥拝頭首工や幹線水路及び幹線排水路が整備され、乾田化及び用排水の分離が図られており、特に遥拝頭首工においては農業ばかりではなく、工業にも用水を供給し、八代地域の製造品出荷額約2,600億円の一翼を担うとともに、宇城・上天草の約7万人に上水を供給し、住民生活を支えています。

しかしながら、本地区の国営土地改良施設は造成後40年以上が経過し、老朽化により、施設の機能が著しく低下している状況にあります。

今後、本地区の農業・工業・生活を更に発展させるため、用水施設の改修、耐震性能を有していない施設の耐震対策を行い、用水の安定供給や維持管理の省力化を図るとともに、近年の降雨量の増加等に伴う湛水被害を解消するため、排水施設の機能向上対策等を実施し、更なる水田の汎用化を促進する必要があります。

そこで、九州農政局支援のもと、熊本県、八代市、氷川町、関係土地改良区等が一体となり、本事業に関するきめ細かな地区説明会を開催し、受益者の3分の2以上の同意を得て、平成30年12月に事業が確定しました。

現在、九州農政局の現地事務所である八代平野農業水利事業所により、幹線水路をはじめとした施設の改修工事が着々と進んでおります。

つきましては、国営八代平野土地改良事業の更なる推進及び予算確保のため、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年11月24日

八代市長 中村博生

氷川町長 藤本一臣